

## STORM

嵐の前

嵐の前の静けさって見えるんだよ、俺にはね。と、若い漁師が話し始めた。これはすごい嵐が来るっていつに一人海に出て、どんな大きな波が来ても波に船をまかせて、じっと目を閉じて耳を澄ましていると、海の中からざわざわと魚たちが騒ぐ声が聞こえてきて、突然海面をさーっと擦るような冷たい風が吹き始める。そうすると、それまでの真っ黒い雲や風やうねりがウソのようにぴたりと止んで静かになるんだ。静けさを感じたらゆっくりと目を明けて見るとね、その光景といたら・・・真平に静まり返った海の上に俺が一人きり浮かんでいる。海はさっきまでの鉛色と違って、すべてが透明で水なんて何もないみたいに、海の底まで全部見渡せるのさ。何十いや百メートルも下まで見渡す限り海の中が見えるんだよ。想像できるかい。海の底っていうのはほとんど冷たい砂漠みたいなものだけれど、それでも、その中には丘や山や岩があって緑があふれる温かい場所がある。花が咲いて小川まである。その周りにはすばらしく美しい色とりどりの魚やら髭の長い海老やら何だか見たこともないような生き物まで集まっている。それに小魚の群れと、それを追いかける大きな魚の群れ。時には鮫みたいな恐ろしい奴もいる。彼らは大きな海の中を所狭しとすごい速さで泳ぎ回っている。その様子はまるで、大空を飛び回っているようだ。魚たちは大きな嵐が来ると知ると少しでも何か腹におさめようとして必死になって獲物を追いまわす。俺だって見とれているばかりじゃない。こんな凄惨な漁ができるチャンスなんてめったとないからね。この静けさが終わるまでは何もかも俺のものだ。魚たちから俺のことが見えるらしいから、殺気立った奴らとの正真正正、真正面からの勝負さ。もちろん、勝負はこっちのものだ。大漁だったよ、信じられないくらいだね。そしてその内、生温かい風が吹き始めたら終わりだ。その一瞬間を見逃したら二度と帰れないだろう。それを見逃すほど間抜けじゃないさ。でもね、引き上げるその時に見えるんだ。海の中の、なんていうか魔物みたいな奴が・・・真っ黒な数十メートルはありそう恐ろしくでかいあの魔物が海の底からゆらりと姿を現わすのが・・・俺は思うよ、きっとその内・・・その内きっと、帰れなくなるだろうって・・・



## INFORMATION

劇団くるま座の活動がまた始まりました。鎌倉雪ノ下カトリック教会に所属するヨレクホールと鎌倉に縁の深い劇団です。人間だれでも』という寓話を、雪ノ下教会でのクリスマス公演に向けて練習中です。何年前か、スペインの有名なバロック戯曲を出し物にした事がありますが、その時には、チェンバロ、チェロ、リコーダなどの編成による本格バロック音楽の生演奏が加わり、皆が始めて聞くその音色の美しさに感動しました。それで始めて、小学校の時にみんなで練習したりリコーダって笛がこんなにクラシックな音楽の為のもので、ソモできる楽器だという事を知りました。その演奏は鎌倉在住の音楽家の方達のご好意によるものだったのです。ヨレクホールのOBにも小さい頃からリコーダを勉強しつづけている人がいます。音楽大学を経て今では各地の学校や、クラブや個人にも教えています。個人レッスンの生徒さん募集中です。興味のある方はご連絡下さい。

河村理恵子 桐朋学園大学卒業  
0467-25-5312 鎌倉材木座在住



## COLUMN

鎌倉の猫事情 その四

ヨレクホールも古い木造家ですが、——それもかなりオンボロの。先日つづくと眺めてみたら、家全体が焚き木みたいに見えて悲しくなりましたが、この辺りにはまだまだこういう木造の家が残っています。この木造家が少しまとまって建っているところが、猫にとって住みやすいかどうか重要なポイントです。私が猫ならもらわれて行く前には是非チェックしておきたい点です。あ、それに子供があまり多い家もいけません。昔から犬が住む家を決める時には『この家は、お子様は何人ですか?』と聞き、猫は、『ここは、ガキは何人だ?』と聞くらしいです。いや何も、猫が犬より柄が悪いと話じゃなく、犬は子供と遊ぶのが好きだけど、猫は嫌なんです、子供みたいにチヨコマカして五月蝿いのは、それにあいつらは尻尾をひっぱったり足もって逆さに吊るしたり滅茶苦茶しますからね。でもこの辺り先当世のご多分にもれず、子供は少なくないました。昔は天皇家の別荘で御用邸だったという今も当時の立派な御門の残る、鎌倉の名門?御成小学校でも一学年のクラス数が激減しているという話です。そうそう

現在御成小学校の通りを隔てて建っている高級スーパー紀ノ国屋の場所は、昔はテニスコートだったそうで、若き日の皇太子さまと美智子さまがテニスに興じられるお姿が見られたとか。今紀ノ国屋に入ってみると、それは素晴らしい食材がズラリ並んでいます。それやもう沢庵一つと違って違うんです、その辺の八百屋とは、一つ一つ値段を見て、結局何も買わず、ため息ついて帰ってくるのがおちで、目の保養にたびたび来られちゃお店も迷惑でしょうけど。また話がそれてしまいましたが、とにかく猫の住環境にはバロな木造家が固まって建っているというのが一番なんです。板塀にはたいいてい裂け目があつてくぐり抜けられますし、家そのもだつて猫の通れる隙間だらけ。家と家の屋根や庇は連らなってちょっとジャンプすれば家から家へ渡り歩くにはちょうど好いですから、猫道はあらゆるところでできています。縁の下は、一年中じりじりとして、前足で引っ掻いてウンチを埋めておくには最適な条件です。まあ、昔の家は猫のために設計されていたようなものですね。ヨレクホールの周りに七屋根つたいに歩いていける家がまた何軒か残っています。裏の家には——世間さまから見ればうちの方が裏なんです——南向きの居心地の良さそうな庇があります。その家は少し前まで『はらぶき村』という駄菓子屋さんでした。何でもおばあちゃんが昔駄菓子屋を営んでいたとかで、息子さんだかお孫さんだか、今のご主人がおばあちゃんの意志を継いで再開したもので、しばらくお店の前は子供達が集まって遊んでいましたが、数年前、子供が少なくなったせいとか、閉めてしまわれたのです。子供達はがっかりしたでしょうけど、猫はほっとした事でしょう。そのご主人は、見るからに穏やかな人柄な人物で、何か家全体も穏やかな空気がありますから、不思議なものですね。そう言えば、その庇にいつも寝ていた茶色と白のブチ猫もどこか穏やかな趣きの猫でした。

to be continued

